

# 「学校現場における教育カウンセリングの現状と課題」

～ 子どもに関わる人への応援メッセージ ～

上級教育カウンセラー / 学校心理士 佐藤 さゆ里



子どものまわりにはすでにすてきな力がたっぷりあり、同時にそれを伸ばすためのチャンスもたくさん溢れています。このような子どもたちに関わる私たちが「今できること」「ぜひしたいこと」を、具体的に一緒に考えてみましょう。

## ○ はじめに

子どもたちと培ってきたこれまでの経験だけでは、今の子どもたちの問題には対処できない部分がある。だが、プラス  $\alpha$  を付け加えることでこれまでの経験が光ってくる。それが教師や親のできるカウンセリング、つまり「育てるカウンセリング」(國分康孝、1998)である。

### 「育てるカウンセリング」

不登校やいじめなどなどの問題を予防したり、子どもの適応や自己成長を援助したりするカウンセリング。



自分で問題に対処する能力を育て、自分で問題を予防し、自分で自分を成長させていく能力を育てることが目標。

### 「育てるカウンセリング」 + 「治すカウンセリング」 よりよい生き方の援助

(教師、親など)

(カウンセラーなど)

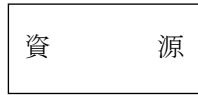
## ○ 現状 — 学校と子ども、家庭の間で見えるもの

- 1) 子どもとの出会いから・・・ 「育てるカウンセリングの視点、対応があったなら」  
→ 「予防」という視点での関わりの大切さ
- 2) 伝わらない伝え方スキル・・・ せっかく子どもを大事に思っているのに、伝えたいことが伝わらないなんてもったいない!
- 3) 最終目標からの取り組み・・・ 本来は最終的にめざしたい目標を、最初の段階からすぐに挑戦させる援助をすることが多い。
- 4) 目に見える反応=その子自身・・・ 目に見える形で表された反応を、あたかもその子どものすべてを語るものと考えてしまう。  
Ex. 友だちとの関係で攻撃的な関わり方をする  
子ども → 「だってこの子は乱暴な性格だもの」
- 5) 「できていないところ探し」モード・・・ このままでは、子どもの変化を十分に応援できなくなる。もったいない!

<気づいていない資源>



<資源は生かす>



これらはすべて、「この子がよりよく成長するために、何とかしたい」「問題を解決してあげられたら」という温かな思いが基になっている。これ自体、本当はすでに大きな「資源」である。

よって、このせっかくのすてきな資源はきらりと光るものに変えること、磨くこと、これが今後の課題である。

## ○ 課題 - 資源を生かそう

- 1) 目に見えない反応があることを知る・・・ Ex. 担任の対応を待ちわびる子ども  
・ いつか目に見える反応に出会うために、この状態でできる関わりとは？  
→ 投げかけ言葉  
「私はあなたのこと、ちゃんと気づいているよ、見てるからね」の思い
- 2) 上手な聴き方、話し方のスキルを身につける・・・ 子どもに身につけさせたいものは大人も身につけたいもの。  
①体を向ける②あいづち③表情
- 3) 問題行動 ≠ 性格・・・ 問題行動とその子自身をきちんと分けてとらえることが大切。 「どのスキルが不足しているからかな？」
- 4) 具体的に対処策が立てられる力・・・ 「いま、ここで」の視点。  
最終的に目指したい子どもの変化に対して今の状態ならどの部分の関わりが出来るのか。
- 5) いいとこさがし・・・ いいところをじっくり見てくれる他者との出会いは変化のきっかけにもなり、自己肯定感を支え、伸ばすになる。できないところ探しモードからの転換が大事。  
※ エクササイズ「長所のたなおろし」

## ○ おわりに 子どもに関わる人への応援メッセージ “だれとどんな出会いをするか”

「人ってこんなに変われるんだよ」(子どもの声)

援助は特別な時間にもみできるのではない。子どもに関わっている私たちは、いつでもその場面に携わっているのである。どの瞬間も大事に思える姿勢があること、そしてそれを形にできる教育カウンセリング的視点があること—「今、ここで」子どもと一緒に関わっている私たちがやれることはたくさんある。

さあ、新しい春です！ 出会えた子どもたちが持っているステキな芽を、具体的な方法で伸ばしてあげられるみなさんでありますように！！

